

点字マップ改訂版作成に伴う留意点と課題

○村山 花子
(横浜市立よこはま動物園)

当園の触地図（点字マップ）は2014年以前の制作を最後に更新されていなかったため、2015年に開園した「アフリカのサバンナ」ゾーンの追加と、展示動物種が変更になっている箇所の変更を目的に、最新の情報で制作することになった。更新するにあたり、まず触地図の説明冊子の更新を行った。また、どのようなものが利用者にとって使いやすいのかを「就労継続支援B型事業所 わーくびあ」の職員の方々などから情報収集した。

まず点字は、縦3点、横2点の凹凸の組み合わせで文字を判断するツールである。読み方は一般の読み物と同様で、横書きの場合は左上から、縦書きの場合は右上から指を置いて順々に読み進める。目で探して読むことができないため、何を説明しているものかをタイトルと併せて最初に短く説明した。また、旧版では表記がなかったトイレや授乳室、AEDのある場所を、今回制作した説明冊子ではゾーンごとに数や施設名とも併せて示した。

目が見える人とのギャップが生じないように、通常 of 園内マップに記載してある内容と変えないことも大事である。目の見えない方は通常、学校などの団体で来園されるか、付き添いの方が同行している場合が多い。表記が異ならないような配慮が必要である。

制作にあたっては、試作品を神奈川県内の盲学校3校に依頼して校正していただいた。

一方で、目が見える人にもわかるようにすることも大切であるため、触地図の制作では文字の印字の上から透明の点字をのせる制作方法を検討している。何のための図であるのかを示すタイトルの位置や、トイレなどの設備の凡例を、触地図の読み方にならって読み始めの左上に配置する予定である。また、今後の説明冊子の更新は、通常 of 園内マップと表記を統一するため、園内マップの変更に合わせて随時変更を行う。